

# 2004

(平成16年)



理事長 寺田 太郎

## 温故知新

～素晴らしい伝統を継承し、  
未来に繋げていこう！～

### 出来事

- 1月** ●第1回定時総会・例会（本町会館）  
●京都会議
- 2月** ●例会「地域社会の目指す教育を考える」  
（松山市総合コミュニティセンター）
- 3月** ●例会「まつやま市民シンポジウムの歴史とこれから」  
（本町会館）  
●俳句甲子園映画化決定
- 4月** ●松山春まつり お城まつり  
●わかっぱせファンド受給者証授与式  
●公式訪問例会（今治国際ホテル）  
●愛媛ブロックスポーツ交流大会（伊予三島）
- 5月** ●第34回四国地区愛媛ブロック会員大会（丹原）  
●例会「松山JC 正しいところだね」  
（松山市総合コミュニティセンター）  
●第54回JCI ASPAC ベナン  
●第23回全国城下町シンポジウム（津山）  
●第17回わんぱく相撲まつりやま大会
- 6月** ●第51回四国地区会員大会（高知）  
●例会「今後のお城まつりについて」  
（松山市総合コミュニティセンター）  
●あいあいプレキャンプ（松山野外活動センター）
- 7月** ●家族例会（ふたみサイド公園）  
●サマーコンファレンス（横浜）  
●第20回わんぱく相撲全国大会
- 8月** ●松山JC創立記念パーティ（本町会館）  
●第7回俳句甲子園（優勝・甲南高等学校）  
●第1回臨時総会・例会「障害者就業実態報告」  
（松山市総合コミュニティセンター）  
●第3回わんぱくセミナー（太洲青年の家）
- 9月** ●例会「時代を担う親として」  
（松山市総合コミュニティセンター）  
●第21回まつやま市民シンポジウム  
●第53回日本JC全国会員大会（水戸）
- 10月** ●例会「[シャッフル] 俳句甲子園」  
（松山市総合コミュニティセンター）
- 11月** ●第2回定時総会・例会「JCなら出来る教育活動」  
（松山市総合コミュニティセンター）  
●第59回JCI世界会議（福岡）
- 12月** ●例会「卒業式・懇親会」（松山全日空ホテル）



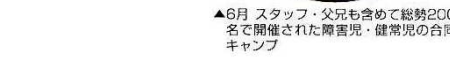
▲3月 俳句甲子園映画化決定をPRする寺田理事長



4月 伊予の国水軍太鼓・松前湧水太鼓の合同演奏（松山春まつり）



▲5月 90名のちびっ子力士達が力と技をぶつけ合った（わんぱく相撲）



▲6月 スタッフ・父兄も含めて総勢200名で開催された障害児・健常児の合同キャンプ

### 2004年 松山市の動き

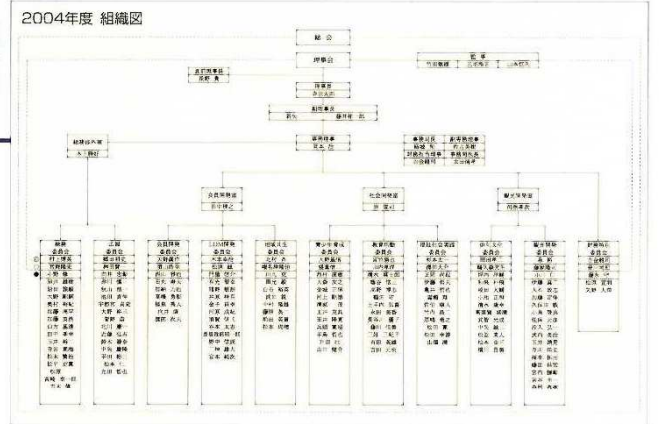
- 7月 国際定期航空路線・松山—上海便就航
- 10月 松山市、韓国の平澤市と友好姉妹都市提携調印
- 11月 ヘザー・ファーゴクラメント市長に特別名誉市民の称号贈与



▲7月 網がもつれるほど興奮の地引網体験（家族例会）



▲8月 多くのシニアメンバーにもご出席いただき記念事業としてシニアvs現役の俳句甲子園も行われた（創立記念パーティー）



9月 初の試み「親守歌コンテスト」  
（まつやま市民シンポジウム）

### 創立52周年記念式典&記念パーティ 俳句甲子園

#### お題「風鈴」

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |    |                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>シニアチーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 風鈴や伊予の夕なぎ微動せず<br/>（杉浦旭先輩 1975年度ご卒業）</li> <li>○ 風鈴のそよぎや孫と大の字に<br/>（江刺精久先輩 1979年度ご卒業）</li> <li>× 三十路女行かず子無しは風鈴一<br/>（吉金憲司先輩 2002年度ご卒業）</li> <li>× 風鈴や明日は新台入替日<br/>（小野高史先輩 2003年度ご卒業）</li> <li>○ 床乱れ風鈴乱れる情話かな<br/>（田中義見先輩 1980年度ご卒業）</li> </ul> | VS | <p><b>現役チーム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>× 風鈴や瞳とじればセピア色<br/>（原後司君）</li> <li>× 風鈴の鳴り散らかりぬ浜風に<br/>（吉田元明君）</li> <li>○ 水琴の風鈴願ひごとひとつ<br/>（赤川慎一君）</li> <li>○ 風鈴に風の声聴く夕涼み<br/>（坪内洋輔君）</li> <li>× どこ行くの？聞く縁側に鉄風鈴<br/>（長野貴君）</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 社団法人松山青年会議所2004年度理事長所信

社団法人松山青年会議所

寺田 太郎

### 『温故知新』

～素晴らしい伝統を継承し、未来に繋げていこう！～

#### 【はじめに】

今、精神の荒廃や心の成長という視点に立って、わが国の社会全般における状況を見てみると、子供だけではなく、範を示すべき大人までもがすぐに「キレる」そして「短絡的な行動に走る」傾向にあるように思われます。このような自制心が欠如した「わがまま」な振る舞い、考え方が世に溢れています。何故このような社会になってしまったのでしょうか。教育の現場である家庭や学校、また職場や地域においても、現在は「個の邸重」という理念が姐きをなしています。それ自体に問題があるとはいえませんが、「自分のための腺重」のみが叫ばれ、「他の尊重」や「公の隙諷」がなおざりになってしまっている。権利の主張だけが先走り、義務の履行があまりにもおろそかになっているのではないのでしょうか。この、いわゆる「自分勝手至上主義」の蔓延こそが現在の日本の活力を奪っている原因に思えてなりません。

では、このような歪んだ社会状況からどのようにして再生を果たしてゆくべきなのでしょう。私たちの人間社会は人と人とが集まることによって形成されており、政治、経済、福祉など人間が行う活動の全ては人と人とのつながりの上に成り立っています。このように考えると、人は自分ひとりで生きているのではなく、また生きてはゆけない。現実の世界を生きる上では、他の人の存在を無視することはできないのです。「個」が「公」を形成し、

「個」が力を合わせて「公」のために尽くすこと、それが「公」と「個」全体の発展と向上に繋がってゆく、という原理原則を再認識することこそ、我が国、そして我々の所属するJCにおいて

も「活力」を取り戻すための鍵となりうるのではないのでしょうか。そしてさらに、「個」と「公」に対する意識を自分自身の中でバランス良く成長させ、実行につなげていくことが、世界に類のない伝統文化を継承する日本人として、世界に誇れる成熟した大人 社会を構築していくことへとつながっていくのではないのでしょうか。

#### 【情熱と実行力をもつ青年として】

「松山青年会議所設立趣意書」によると「青年」それはあらゆる価値の根源である。野年の集う処必ず其処に絢爛たる文化の華咲く。国際青年会議所は独創欲に炎える若き情熱と実行力を持った青年実業家ならびに文化人の集団である」と沓かれています。確かに我々野年は、幾多の困難に立ち向かい年齢を重ねてこられた諸先猜方のような経験や知識は持ち合わせていないかもしれない。しかし、若き情熱と実行力を持った青年として、たとえいかなる逆境においてもその状況下を愉しみ、失敗を恐れず力強く前進してゆく内なる力を大いに発揮しなければなりません。

また、それと同時に、“古きをたずねて新しきを知る”「温故知新」の心構えを持つべきであると考えます。昨今の風潮として、「古いもの、過去のものはこの時代にそぐわない。変革が必要だ」と一概に決めてかかるようなところがあるように感じます。しかし、不変的に語り継がれてきた先人たちの知恵や言葉、それらを素直な心で受け止め、時代に則した形に変えて応用してゆくという柔軟さと謙虚さを持つべきではないでしょうか。

### 【我々がなすべきこと】

我がまち“まつやま”は数え切れないほどの有形無形の文化遺産を持ち、また、俳人正岡子規や「坂の上の雲」の主人公である秋山兄弟をはじめ、数多くの日本を代表する倅人を楚出しています。このような恵まれた環境の中、我々には先賢諸氏の培ってこられた様々な素晴らしい事業があります。これらの事業を継続し、将来に繋げてゆくのはもちろんですが、それに取り組む姿勢は、「この事業をどういうものにしたいのか？更によくするためにはどうすべきなのか？」という積極的なものでなくてはなりません。その時々状況により、企画運営が非常に困難な状況に陥ることもあるでしょう。しかし、継続することだけを目的とし無難にまとめようとした時点で、その事業の発展と必要性は無くなるのではないかと。そして何より、同じ時間を共有し、共に苦勞した者達だけが味わえる至上の「達成感」を失うことになるのではないかと思います。どうせやるなら、とことん考え、大いに譲論し、そして「机上の理論」に終始することなく積極的に行動を起こすべきです。事業の成功や失敗はあくまでも結果であり、むしろこの、成功、失敗の過程を通して、自分一人の力の無力さに気づき、他のJCメンバーや外部との協力体制がいかに大切なものであるかを身に泌みて感じる事、相手を尊重し、認め合うことの大切さを知ることによって、お互いの信頼関係がより強固なものとなっていくこと、これこそがまさに利害関係抜きのJC活動の醍醐味と言えるのではないのでしょうか。そしてその結果、自ずと事業は発展的なものとなり、JC全体がより強力な組織に育ってゆくに違いありません。

### 【JCの使命】

今行政をはじめ、あらゆる方面の各種団体から、JCに対する大きな期待を感じることが出来ますが、また一方では、単年度組織であるが故の連携の取り難さを指摘されることもあります。しかし、同じ目的のもとに協力し合い、確実にコミュニケーションのとれている関係においては、単年度組織であるというシステムも大した障害ではない筈ですし、現にお互い尊重し合いながら素晴らしい協力体制のもと共に事業を運営している他団体も多く存在しています。

JC内部におけるこのシステムの強みは、翌年にいい意味での方向転換が利くことにあります。実際に運営してみて上手くいかなかったのなら、その失敗要因を十分に検証して次への成功につなげればいい。また、明確な目標・目的があれば担当者が変わってもその事業を運営していく上では何の支障も生じない筈ですし、新たに素晴らしい発想が生まれるという可能性も高い。その反面、同じ者が何年も担当し運営を続けてしまうことは、マンネリに陥り易く事業自体が衰退してゆく恐れがあるのではないかと思います。また、他団体との連携という点については、JC内部の議論の中でも「まず他の団体とのネットワークの構築が必要だ」という意見をよく耳にします。確かに事業を推進していく上では

外部団体とのネットワーク構築は大切なことでしょう。が、しかし、それはあくまでも手段であって目的ではない。我々JCには、私心なき大いなる目標・目的を持ちつつ自らの強力な牽引力を発揮することによって、他団体に先駆けて、その事業を「まずやってみせる」使命があると思います。「我々JCがやらずして誰がやる！」の気概で事業に取り組みたいものです。

## 【最後に】

過去は現在の原因であり、未来は現在の結果である。

我々には先輩諸兄から受け継いだものを大切に育み、そしてそれを後世に受け渡してゆく義務があります。歴史は連綿と続いているのです。この素晴らしい伝統を継承し発展させてゆくため我々に必要なことは、自分の置かれた状況を客観的に捉え、だからこそ今なにをすべきなのかを判断できる『ものさし』、つまり『考え方の基本、指針、信念』を自分自身の中に持つことだと思います。『論語』の中に「君子は和して同せず、小人は同して和せず」という故事があります。優れた人物は協調性に富むが、無原則な妥協は排除する。しかし小人物はすぐに妥協はするが、真の協調性には欠けているという意味です。

我々の所属する(社)松山青年会議所は、過去も現在もそして未来も、メンバー一人ひとりが周りに流されない確固たる自己を持ち、その上でお互いを認め合い尊重し合える、そして健全な議論を闘わせ、目的に向かって共に前進してゆくことのできる組織であるはずで

時間は限られています。同じ時を共有する仲間として、明るい未来のため、『強い意志』を持って、JC活動に取り組んでみようではありませんか！

以上